

System i 自習書 実習ライブラリーQEOL 導入の手引き

目 次

1. はじめに - 注意事項
2. EOL 導入前提条件
3. QEOL がすでに導入済みかどうかを確認
4. 導入済みの QEOL の名前の変更
5. QEOL ライブラリー導入手順
6. EOL400 のパスワードを変更するには
7. EOL400 以外のユーザー・プロファイルで実習を行うには

1. はじめに – 注意事項

System i 自習書シリーズの演習を行うためには、当手順書に従って、ライブラリー QEOLの導入を行うことが必要です。

導入を行う前にあらかじめWeb サイトから保管ファイルQEOL.SAVFをダウンロードしておいてください。

弊社ホームページ <http://www.i-learning.jp/service/selfstudy/eol.html> にアクセスし、QEOL ライブラリー導入用保管ファイル(9.8MB)を、ダウンロードしてください。

実習では操作ガイドに従って、すべての受講者がユーザー・プロファイルEOL400 でサーバーにサインオンします。

必要に応じてユーザー・プロファイルEOL400 のパスワードを変更してください。パスワードを変更した場合、受講者にパスワードを伝えてください。パスワードの変更方法は、「6. EOL400 のパスワードを変更するには」を参照してください。

また、貴社のセキュリティの規則により、ユーザー・プロファイルの共用が許されない場合には、使用するユーザー・プロファイル等、運用について貴社のセキュリティ管理者とご相談ください。

EOL400 以外のユーザー・プロファイルで実習を開始する方法は、「7. EOL400 以外のユーザー・プロファイルで実習を行うには」を参照してください。

なお、AS/400 自習書シリーズのQEOL ライブラリーがすでに導入されている場合は、そのまま使用することができます。ただし、実際の画面の表示と、操作ガイドの画面の表示が一部異なるところがありますのでご了承ください。

2. EOL 導入前提条件

実習用ライブラリーQEOL の導入には、OS/400(i5/OS)V5R1 以上のサーバーが必要です。QEOL ライブラリーのサイズは約10MB です。

保管ファイルをPC からSystem i のサーバーに転送するため、TCP/IP が使用可能で、System i のサーバーでFTP サーバーが開始している必要があります。
(FTP サーバー機能の開始については、貴社サーバー管理者の方等にお尋ねください。)

PC 上でFTP クライアントを実行しますが、当手順書ではWindows XP のコマンドプロンプトから、FTP のコマンドを使用することを前提に説明しています。
他のFTP クライアントを使用する場合は、それぞれのクライアントの操作方法に従ってください。

導入はユーザー・プロファイルQSECOFR でサインオンして導入を行います。

3.QEOL がすでに導入済みかどうかを確認

端末からQSECOFR でシステムにサインオンして、以下のコマンドを実行します。
WRKLIBPDM QEOL「PDM を使用したライブラリー処理」の画面が表示されます。

「サブセット基準に合うライブラリーが見つかりません」と表示された場合は、「4.
QEOL ライブラリー導入手順」に進んでください。

QEOL ライブラリーの名前が表示された場合は、以下のようにOPT 欄に13 を入力して実行キーを押して下さい。



テキスト'記述'欄に「EOL/400 実習マスター・ライブラリー (REL.3)」と表示された場合は、QEOL が導入済みです。ここで導入の手順を終了し、サインオフしてください。テキスト'記述'欄に「EOL/400 実習マスター・ライブラリー (REL.2)」と表示された場合は、以前のAS/400 自習書用QEOL が導入されています。このライブラリーを使用する場合は、ここで導入の手順を終了し、サインオフしてください。この場合、操作ガイドと画面の表示が一部異なるところがありますが、実習を行うことが可能です。

新しいQEOL を導入しなおす場合は次の「4. 導入済みのQEOL の名前の変更」の手順に進んでください。

4. 導入済みの QEOL の名前の変更

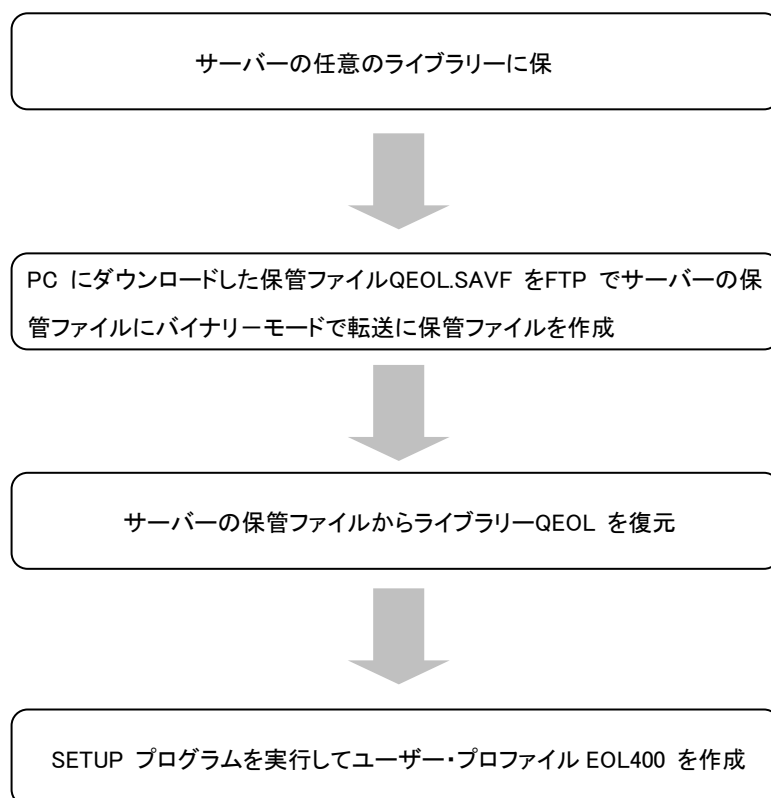
すでにQEOL が導入済みで、新しいQEOL を導入する場合、QEOL を削除しないで、名前を変えておくと良いでしょう。

以下のコマンドはすでに導入済みのQEOL の名前をQEOL_BK に変える例です。

```
RNMOBJ OBJ(QEOL) OBJTYPE(*LIB) NEWOBJ(QEOL_BK)
```

5. QEOL ライブラリー導入手順

導入の流れは以下の通りです。



A. サーバーの任意のライブラリーに保管ファイルを作成します。

端末からQSECOFR でサインオンして、CRTSAVF コマンドで任意のライブラリーに保管ファイルを作成します。

以下はライブラリーQGPL に保管ファイルQEOL を作成するコマンド例です。

```
CRTSAVF FILE(QGPL/QEOL)
```

B. PC にダウンロードした保管ファイル QEOL.SAVF を、FTP を使用して A.で作成した保管ファイルにバイナリーモードで転送します。

以下はa.～c.はWindows XPのコマンドプロンプトからFTPでサーバーに転送する例です。CRTSAVF FILE(QGPL/QEOL)

a. Windows XPの「スタート」メニューから「すべてのプログラム」、「アクセサリ」、「コマンドプロンプト」をクリックしてコマンドプロンプトを起動します。

b. cdコマンド(ディレクトリの変更)で保管ファイルQEOL.SAVF があるディレクトリに移動します。以下はC ドライブのtemp ディレクトリにQEOL.SAVF がある場合のコマンド例です。

```
cd c:¥temp
```

c. 以下の手順でFTPでサーバーにログオンし、ファイルを転送します。

- ① ftp サーバー名 を入力してエンター(FTP を開始)
- ② ユーザー名にQSECOFRを入力してエンター
- ③ パスワードを入力してエンター
- ④ bin コマンドを入力してエンター(バイナリーモードに変更)
- ⑤ put qeol.savf qgpl/qeol.savf と入力してエンター(サーバーに転送)
- ⑥ 転送されたメッセージを確認して、quitと入力してエンター(FTPを終了)

以下は上記コマンドを実行した際の画面例です。「i5kw1」はお使いのサーバー名に置き換えてご覧ください。

```
コマンド プロンプト
Microsoft Windows 2000 [Version 5.00.2195]
(C) Copyright 1985-2000 Microsoft Corp.

C:\>cd c:\temp

① → C:\TEMP>ftp i5kw1
Connected to I5KW1.
220-QTCP AT I5KW1.
220 CONNECTION WILL CLOSE IF IDLE MORE THAN 20 MINUTES.
② → User (I5KW1:(none)): qsecofr
331 ENTER PASSWORD.
③ → Password:
230 QSECOFR LOGGED ON.
④ → ftp> bin
200 REPRESENTATION TYPE IS BINARY IMAGE.
⑤ → ftp> put qeol.savf qgpl/qeol.savf
200 PORT SUBCOMMAND REQUEST SUCCESSFUL.
150 SENDING FILE TO MEMBER SAVF IN FILE QEOL IN LIBRARY QGPL.
226 FILE TRANSFER COMPLETED SUCCESSFULLY.
ftp: 10112256 bytes sent in 1.34Seconds 7535.21Kbytes/sec.
⑥ → ftp> quit
221 QUIT SUBCOMMAND RECEIVED.

C:\TEMP>
```

C. サーバーの保管ファイルからライブラリーQEOL を復元します。

以下はライブラリーQGPL の保管ファイルQEOL から復元するコマンド例です。
RSTLIB SAVLIB(QEOL) DEV(*SAVF) SAVF(QGPL/QEOL)
「150 個のオブジェクトがライブラリーQEOL から復元された」というメッセージを
確認します。

D. SETUP プログラムを実行してユーザー・プロファイルEOL400 を作成します。

(注:ユーザー・プロフィールEOL400 を使用しないで演習を行う場合は、
SETUP プログラムを実行しないで、「7. EOL400 以外のユーザー・
プロファイルで実習を行うには」をお読み下さい。)
まず以下のコマンドでEOL400 がすでに存在するか確認します。
DSPUSRPRF EOL400
EOL400 のプロファイルの内容が表示されたら、すでに存在するため、作成する必
要はありません。F3 キーで画面を閉じてください。
「ユーザー・プロファイル EOL400 が見つからない。」というメッセージが表示
された場合は、以下のコマンドを実行します。
CALL PGM(QEOL/SETUP)

以上で導入作業は完了です。

6. EOL400 のパスワードを変更するには

セキュリティの観点からユーザー・プロファイルEOL400 の初期のパスワード（[操作ガイド]テキストに記載）を変更する場合には、QSECOFR でサインオンして、以下のコマンドで変更してください。

```
CHGUSRPRF USRPRF(EOL400) PASSWORD(XXXXXXXXXX)
```

(XXXXXXXXXX には任意の新しいパスワードをいれてください。)

7. EOL400 以外のユーザー・プロファイルで実習を行うには

実習では操作ガイドに従って、すべての受講者がユーザー・プロファイルEOL400 でサーバーにサインオンします。貴社のセキュリティの規則により、ユーザー・プロファイルEOL400 の共用が許されない場合には、使用するユーザー・プロファイル等、運用について貴社のセキュリティ管理者にご相談ください。

以下の手順を行うことによって、EOL400 以外のユーザー・プロファイルを使用して実習を行うことができます。

各ユーザー・プロファイルでサインオンしたら、以下の2つのコマンドを実行して演習プログラムが起動してください。

```
CHGJOB CCSID(5026)
```

```
CALL PGM(QEOL/AAC010)
```

演習が終了した際には必ず一旦サインオフを行ってください。演習プログラムによってジョブのライブラリー・リストが変更されていますので、絶対にそのまま他の作業を

行わないでください。

なお、すでにユーザー・プロファイルEOL400 を作成済みで、これを無効にする場合は、以下のコマンドを実行してください。

```
CHGUSRPRF USRPRF(EOL400) STATUS(*DISABLED)
```

誤って無効にした場合は以下のコマンドで有効に戻してください。

```
CHGUSRPRF USRPRF(EOL400) STATUS(*ENABLED)
```